

# NEWS RELEASE

平成17年10月25日  
国土交通省中部地方整備局

1. 件名 「徳山ダムに係る導水路検討会(第4回)」の開催結果について
2. 概要 本日、国土交通省中部地方整備局及び三県一市は「徳山ダムに係る導水路検討会(第4回)」を開催し、導水規模及び導水ルートと比較検討等について意見交換を行いましたので、議事概要及び会議資料について情報提供いたします。
3. 資料 別添資料のとおり
4. 解禁 指定なし
5. 配布先 中部地方整備局記者クラブ、愛知県政記者クラブ、  
岐阜県政記者クラブ、三重県政記者クラブ、大垣市政記者クラブ
6. 問合せ先 国土交通省中部地方整備局  
河川部河川調査官 小林 稔  
河川部流域調整官 笹森 伸博  
電話 052(953)8146

## 徳山ダムに係る導水路検討会(第4回)の議事概要

国土交通省中部地方整備局及び三県一市は「徳山ダムに係る導水路検討会(第4回)」を開催した。その内容は下記のとおり。

### 記

- (1) 中部地方整備局は、木曾川水系連絡導水路事業について、揖斐川の上流から20m<sup>3</sup>/s規模で導水する内容でH18年度新規実施計画調査要求したことを説明した。
- (2) 三県一市は、上流ルートを基本として検討を進めることを了解するとともに、計画段階からコスト縮減に努めること、及び湧水に強い地域作りを進めるため、導水路の早期実現を中部地方整備局に要望した。

日時：平成17年10月25日 10:00～12:00  
会場：愛知県産業貿易館西館 8F南会議室

## 徳山ダムに係る導水路検討会（第4回）

### 議 事 次 第

開会挨拶 中部地方整備局 河川部 小林河川調査官

#### 議事

- 1．導水規模及びルートの検討について
- 2．その他

以 上

# 「徳山ダムに係る導水路検討会（第4回）」

## 出席者名簿

日時：平成17年10月25日(火) 10:00～12:00

場所：愛知県産業貿易館西館8F南会議室

機 関 名	部 局 名	役 職	出 席 者	
			役 職	氏 名
中部地方整備局	河川部	河川調査官	河川調査官	小林 稔
岐阜県	基盤整備部建設管理局	水資源課長	水資源課長	岩田 礼一
		河川課長	河川課長	小俣 篤
愛知県	企画振興部	土地水資源課長	土地水資源課長	相徳 知幸
	建設部	河川課長	河川課長	海野 修司
	企業庁	水道計画課長	水道計画課主幹	杉浦 誠治
三重県	地域振興部	資源活用室長	資源活用室長	辻 英典
	県土整備部	河川室長	河川室長	花谷 郁生
名古屋市	上下水道局技術本部計画部	水資源主幹	利水係長	筧 正人

## 導 水 ル ー ト の 検 討

	上 流 案	下 流 案
緊急水の補給 (河川環境の改善効果)	改善区間 木曽川 約60km 長良川 約60km 根尾川 約10km ・長良川の鵜飼 ・アユ等の産卵区域 ・河川環境楽園等からの河川景観 ・ヤマトシジミ等の生息区域 異常湧水時：節水緩和(広域的)	改善区間 木曽川 約30km 長良川 約30km ・ヤマトシジミ等の生息区域 異常湧水時：節水緩和(限定的)
新規利水補給	取水可能地点：犬山頭首工直上流 木曽川大堰直上流 水供給範囲：広い 緊急時の効果：水源の多様化 節水緩和	取水可能地点：木曽川大堰直上流 水供給範囲：限定的 緊急時の効果：限定的
経済性	事業費：約700～900億円 ・山岳トンネルのため単価が安い ・自然流下でポンプ、取水堰不要 運転経費：不要	事業費：約750億円 ・シールド工法のため単価が高い ・ポンプ設備や取水堰が必要 運転経費：約1.5億円/年

### 上流案によるメリット

#### [ 利水面 ]

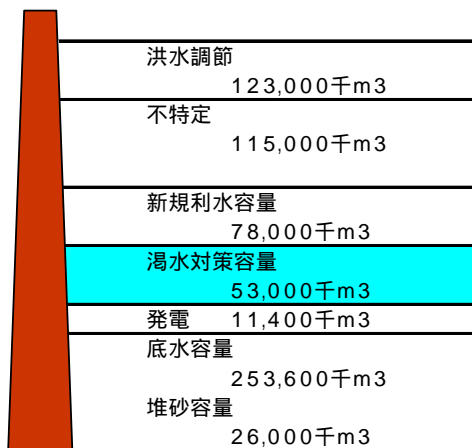
異常湧水時には、木曽川上流ダム群の貯留水が温存されることにより節水緩和につながる。

#### [ 環境面 ]

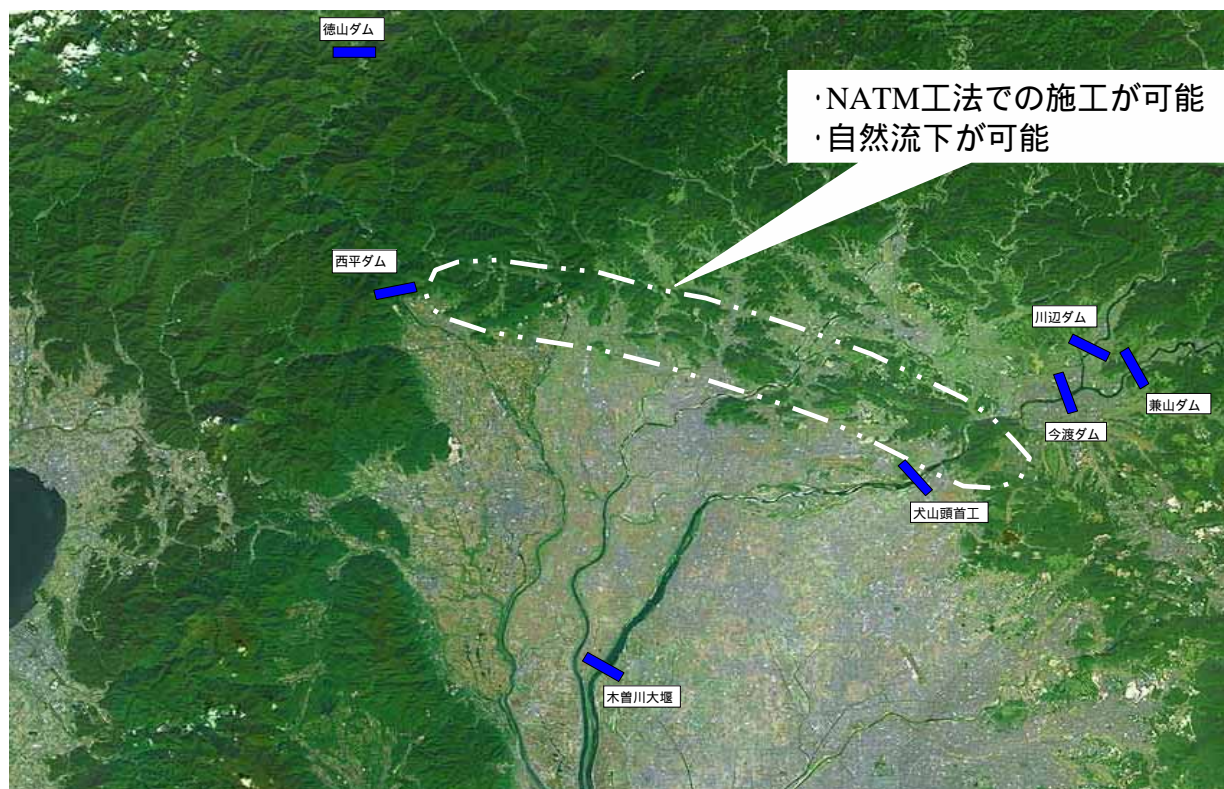
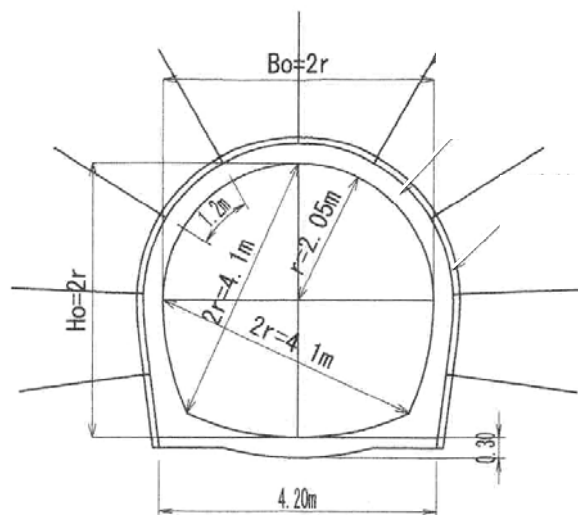
下流案ではほとんどメリットがない。上流案ではアユ等の産卵区域への補給、河川環境楽園等からの景観等、河川環境の向上が図られる。

# 徳山ダムと導水ルート

徳山ダム容量配分図



連絡導水路標準断面図



## 導水による流況改善効果



: 流況改善区間

水深が小さい場合のイメージ



流量の少ない場合ダムから補給

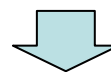
必要水深が確保出来た場合のイメージ



河川環境楽園の観覧車から見た景観



流量が少ない場合

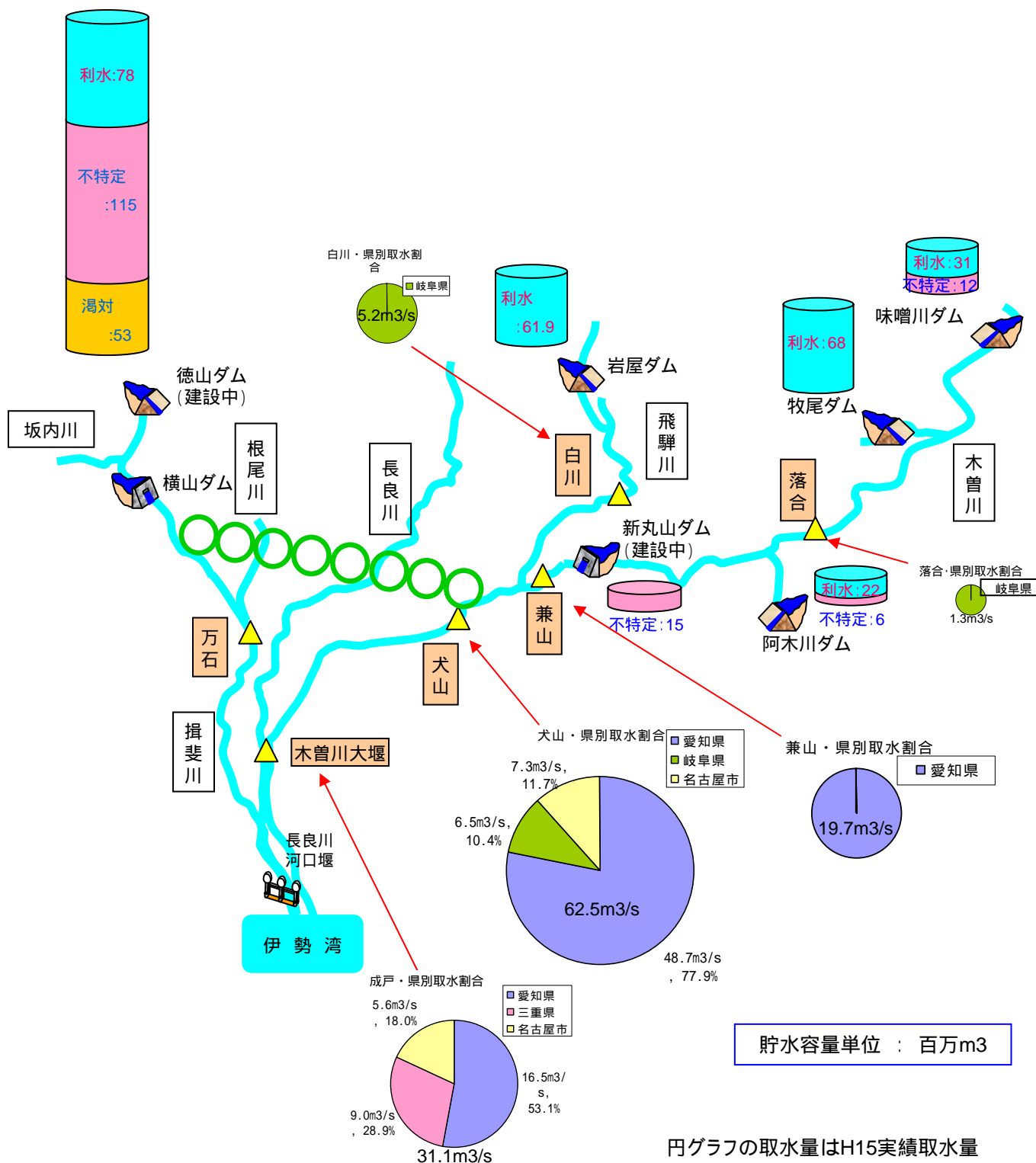


流量が豊富な場合

流水の正常な機能を維持するための流量については、動植物の生息・生育、漁業、観光(景観)、流水の清潔の保持、舟運、河川管理施設の保全等を考慮して定めることとなっている。木曽川中流部42～45km付近はアユやウグイ等の産卵区域であり、動植物の生息・生育や漁業資源確保のためある程度の流量が必要であり、また、同付近にある国営木曽三川公園138タワーパークや河川環境楽園には年間700万人もの来園者があり、河川の景観を楽しんでいる。

このため、異常渇水対策のための導水ルートは、木曽川中流部より下流の広範囲にわたって河川環境の保全等のための補給を考慮し、犬山頭首工上流へ注水する。

# 木曽川水系への依存量とダム貯水容量



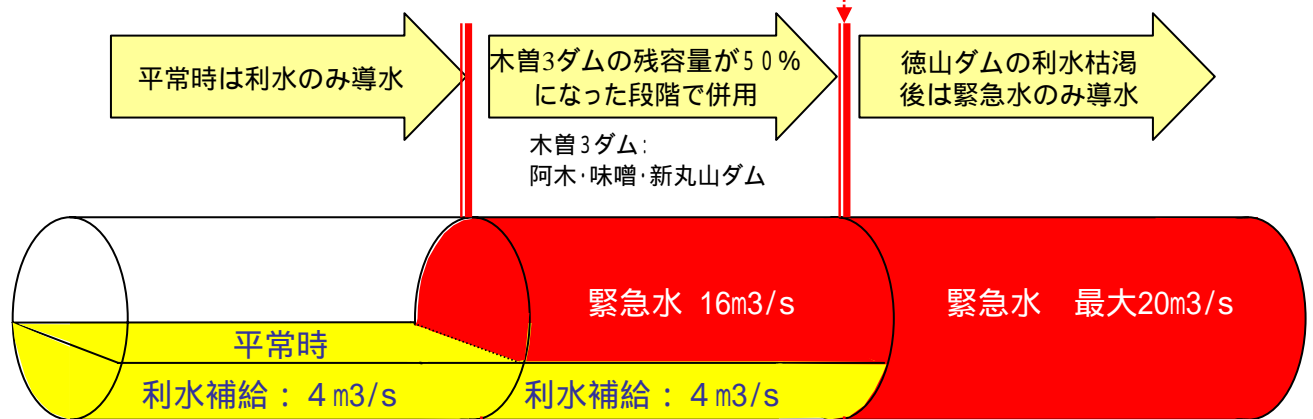
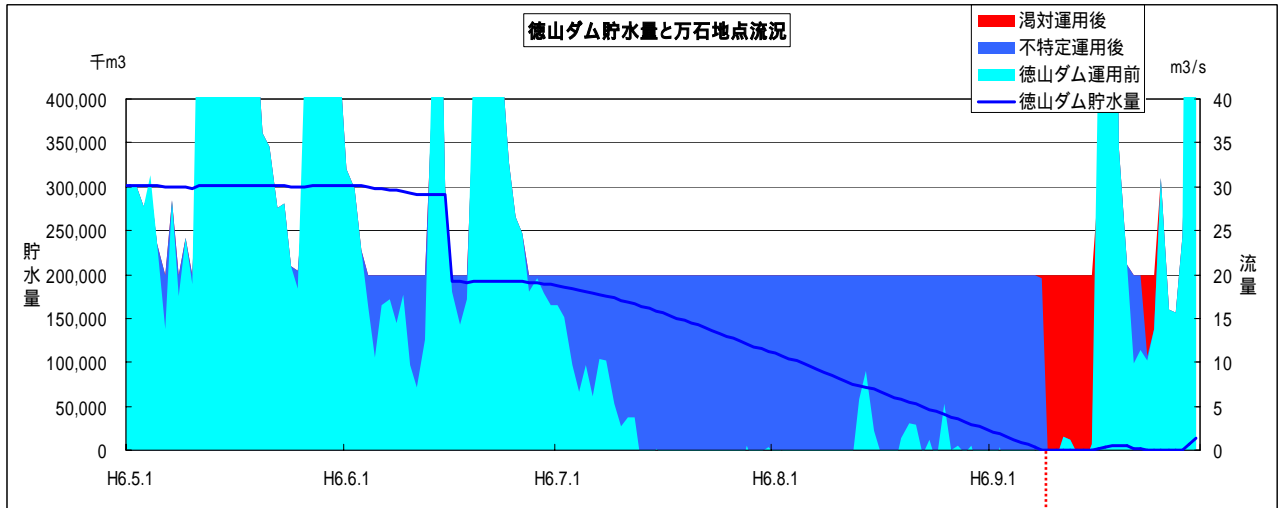
徳山ダムの利水・不特定・湯対容量は2億4600万m3、また、木曽5ダムの利水・不特定容量の合計は2億1600万m3である。  
 犬山頭首工(湛水域を含む)より下流で取水される量は、木曽川全体からの取水量の約80%を占める。



## 導水路の運用 (平成6年流況での試算)

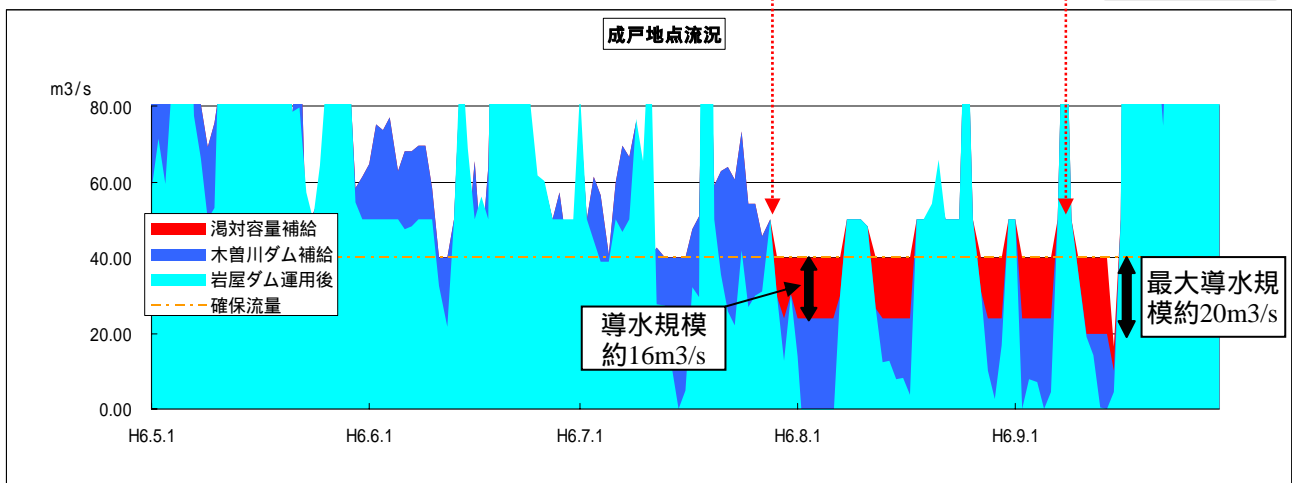
渇水対策補給量 約13,000千m<sup>3</sup>

揖斐川



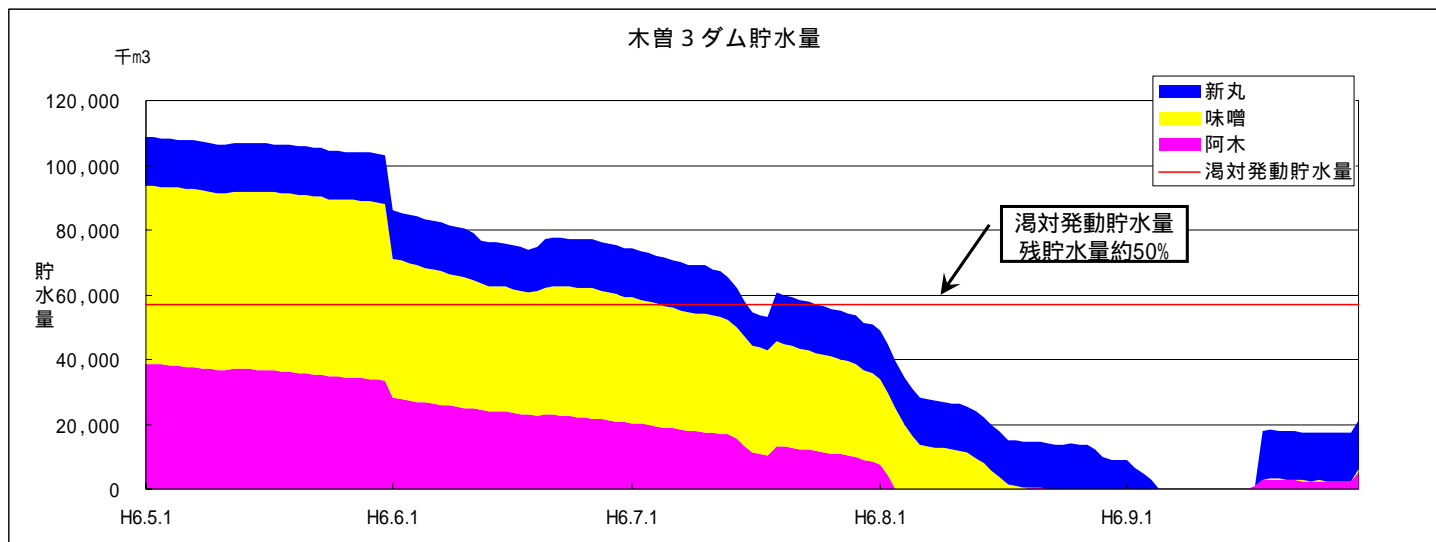
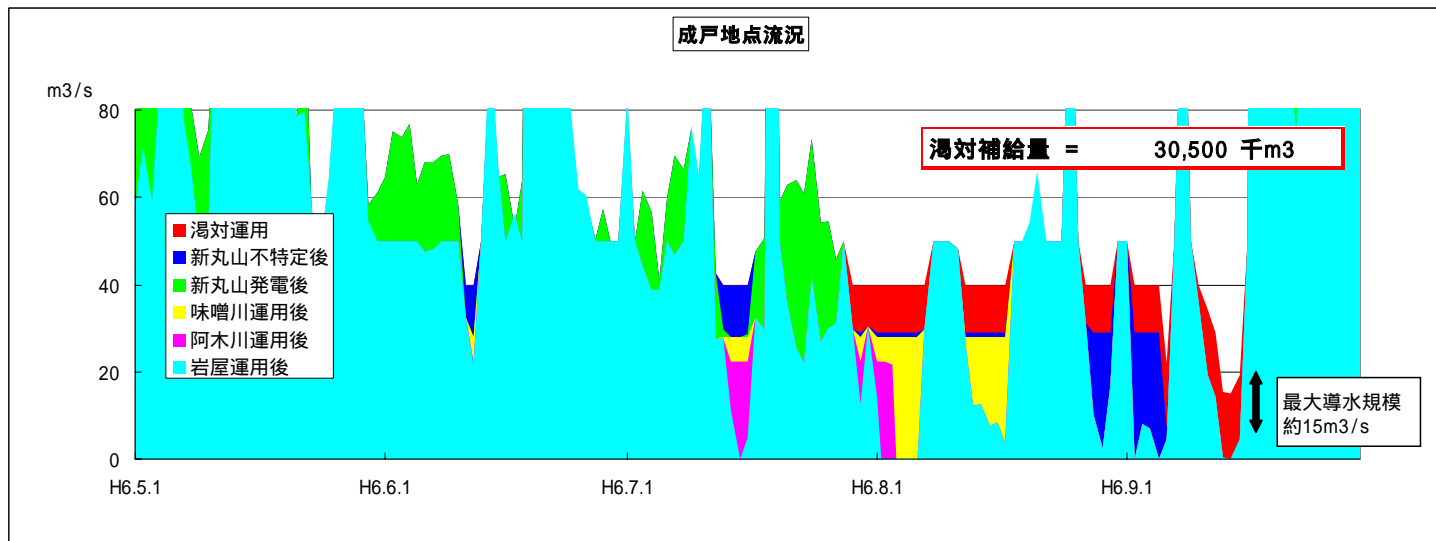
渇水対策補給量 約40,000千m<sup>3</sup>

木曽川

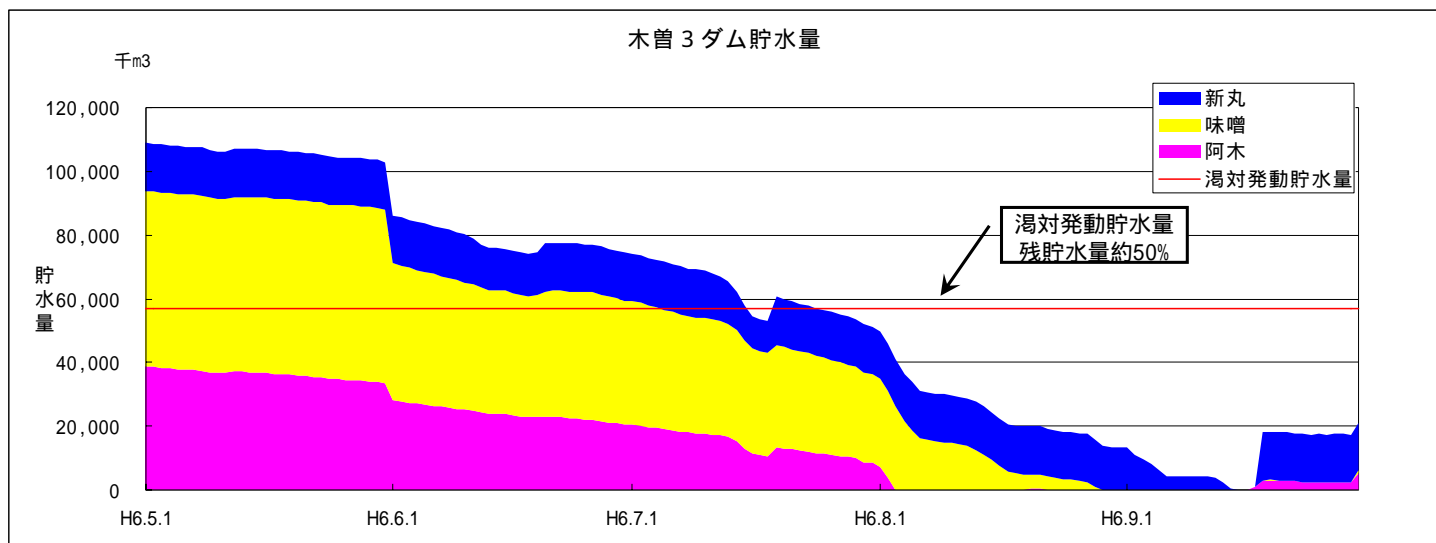
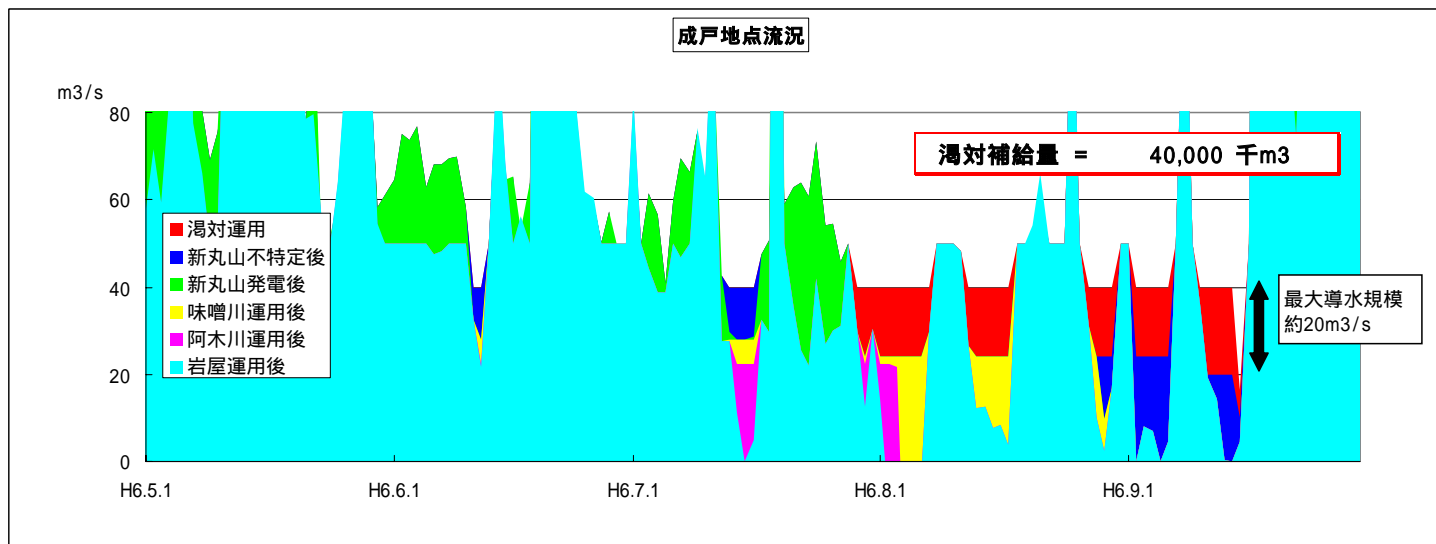


・導水規模を20 m<sup>3</sup>/sとすることにより、木曽3ダムと渇水対策容量とがバランスよく木曽川に補給されるとともに、徳山ダムに確保した渇水対策容量を十分に活用することが可能である。

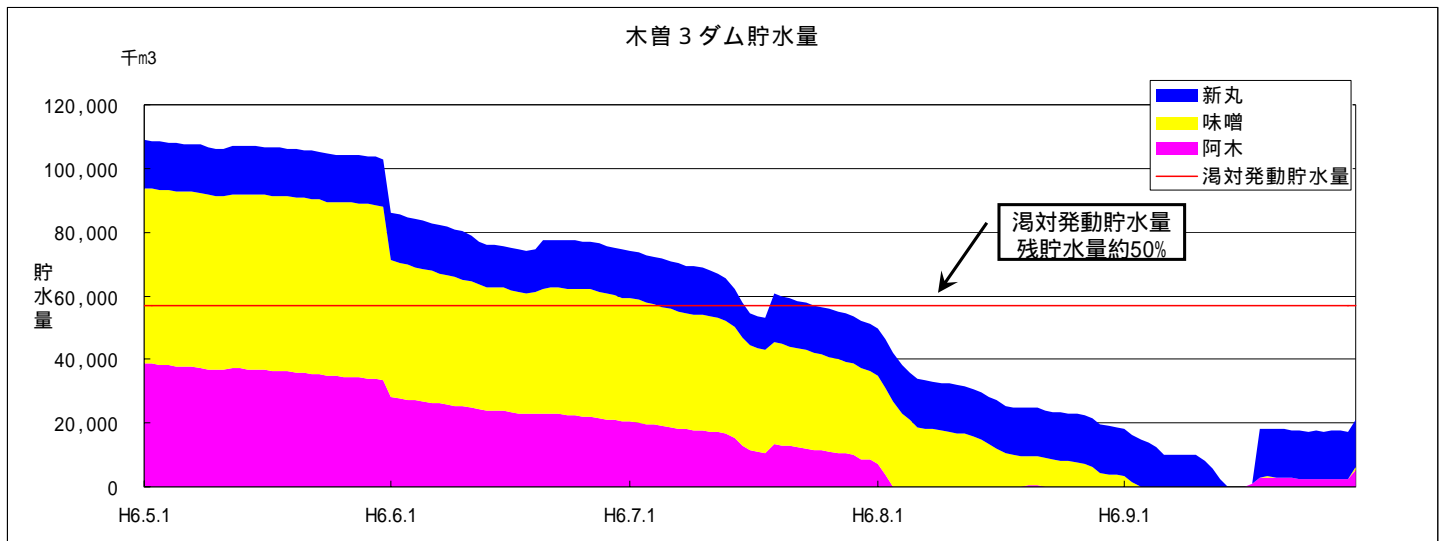
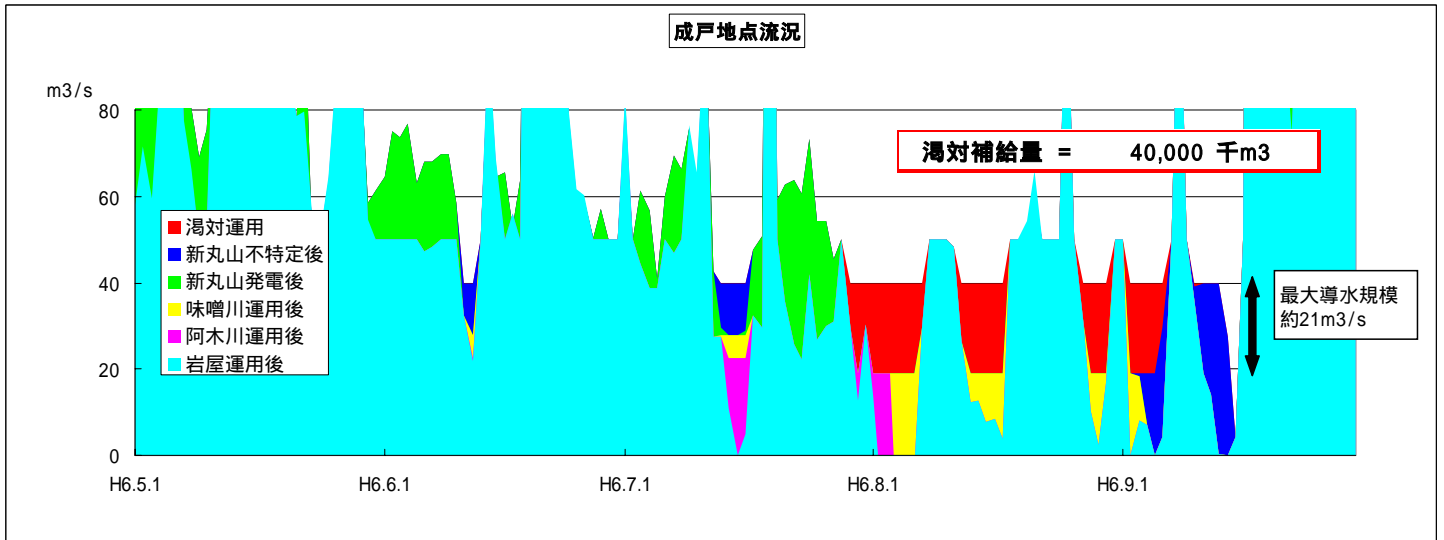
# シミュレーション結果(case1: 15m<sup>3</sup>/s導水)



# シミュレーション結果 (case2: 20 m<sup>3</sup>/s 導水)

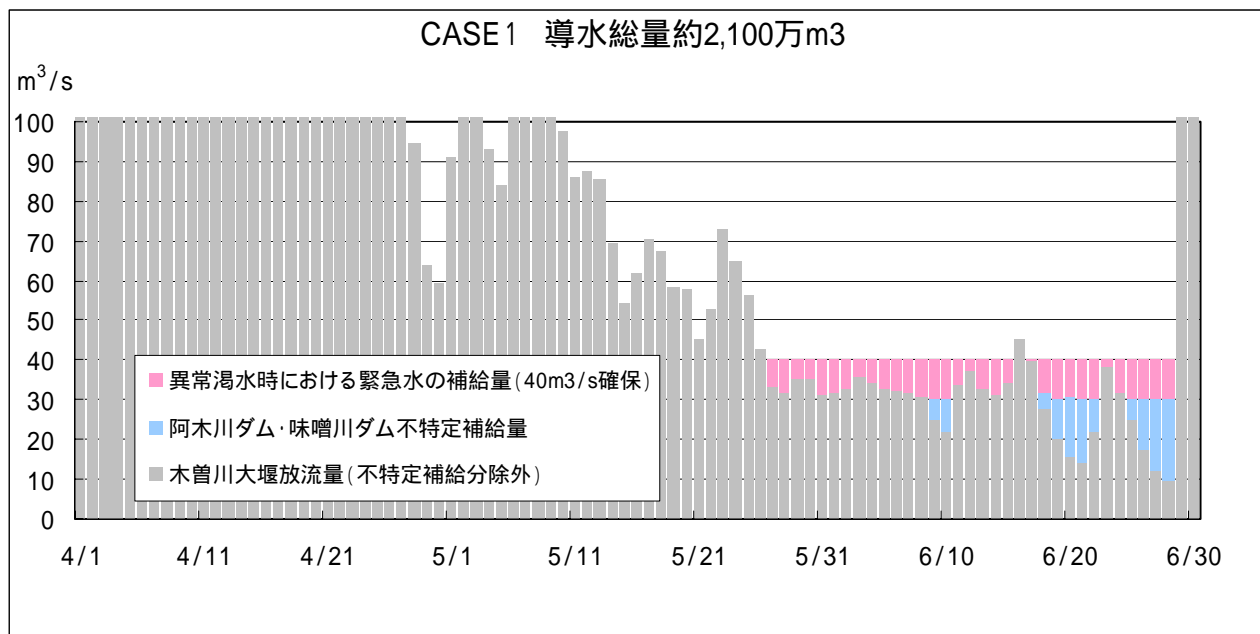


# シミュレーション結果(case3: 25 m<sup>3</sup>/s導水)



# H17 渇水での導水効果

## CASE 1 実績流況に対する効果



## CASE 2 新丸後に対する効果

